

和歌山市の沿革

不老橋

嘉永4年（1851）に完成したアーチ式の石橋である。東照宮の祭礼和歌祭のお旅所移転に伴い、片男波方面と玉津島神社方面とを結ぶために架橋された。「不老」は当時の紀州藩10代藩主徳川治宝^{はるとみ}の長寿を願って命名されたという。



江戸時代の面影を残す 大手門付近（明治初期頃）

写真中央に大手門と高欄擬宝珠付の一の橋が見える。門の左（東側）には塗籠の多門が連なり、右（西側）には土塀と石垣上に石落しがある月見櫓が見える。石垣、堀、橋、門、多門、櫓など、城としての防御施設が備わっていたことがわかる。

和歌山駅と和歌山市役所庁舎

省線東和歌山駅は（現JR和歌山駅）は、大正13年省線紀勢西線が和歌山駅（現JR紀和駅）、箕島駅間で運行を始めた時に中間駅の一つとして開業した。当時、駅周辺は田畑や池が多かったが、昭和5年に阪和電気鉄道が阪和線を開業させると、乗降客が増え、和歌山市における東の玄関口として発展していった。



新装の和歌山市役所庁舎



和歌山城周辺空中写真

和歌山城全体を写した空中写真で、和歌浦まで見える。中央の太い道路は国道42号である（昭和30年代後半）。

老人クラブ運営方針

1 クラブの目的

- 老人クラブとは、地域を基盤とする高齢者の自主的な組織として、
- ①仲間づくりを通して、生きがいと健康づくり、生活を豊かにする楽しい活動を行う。
 - ②その知識や経験を生かして、地域の諸団体と共同し、地域を豊かにする社会活動に取り組む。
 - ③明るい長寿社会づくり、保健福祉の向上に努めることを目的とする。

2 クラブの性格

①自主性、地域性、共同性

老人クラブは、高齢者が自主的に仲間づくりをすすめ、それぞれの地域の実態に即して小地域ごとに組織づくりをし、高齢者が共同して相互に支え合い、楽しみを共にすることを基本にする。

②総合的な活動、多様な活動形態

老人クラブ活動は、会員の意見（ニーズ）にもとづき、「生活を豊かにする社会活動」の、総合的でかつ均衡のとれた活動展開をはかり、また、小グループ活動や世代交流、地域の諸団体との共同活動など、多様な活動形態により推進する。

③各世代、男女が共同する民主的な運営

老人クラブは、組織を構成する高年会員・若手会員・男性会員・女性会員など均衡に配慮して役員構成を行い、活動分野ごとにリーダーを設けるなど役割分担をして民主的な運営を行う。

(全国老人クラブ運営指針より抜粋)



和歌山市老人クラブ憲章

私たちは和歌山市老人クラブ員であることを喜びとし、くらしをより豊かにより楽しくするために次の事柄に努めます

1. 健康に気をつけ心のびのびくらしします
1. 互いに励まし合い趣味を育ててくらしします
1. 教養を高め話し合いの輪を広げてくらしします
1. 役立つことを考え出し進んで奉仕してくらしします
1. 感謝と思いやりの心を忘れず笑顔でくらしします



和歌山市老人クラブ連合会設立時とその後の沿革及び概要

老連名 和歌山市老人クラブ連合会

所在地 〒640－8226 和歌山市小人町29番地

設立年月日 昭和38年8月1日

○沿革

昭和38年創設、当時は社会福祉協議会の中に発足し、その後、高齢期の生活を豊かにするため、和歌山市老人クラブ連合会が結成され、初代会長・嶋田定則、副会長・太田伝一・中村虎造が就任されました。

近年は、社会を取り巻く経済、福祉の環境の変化に伴い、市老連も厳しい現状ではありますが、少しずつ進歩しながら50年歩み続けています。

また、それぞれの部会が多岐にわたり趣向を凝らして老人クラブ活動の展開を行ないつつあります。

○現在の概要

◇健康

①芸能大会

各地区から1組、舞踊・歌などを披露（年1回）

②高齢者福祉問題研究会

講師を招き講演会を開催（年1回）

③新会長等研修会

リーダーとしての心構えなど・事例発表（年1回）

④ブロック研究会

市老連の1～10ブロックごとに研究会を開催

（奇数ブロックと偶数ブロック別 各年1回）

⑤理事・女性部合同研修会

日帰りで他都市の老人クラブを視察・交流

⑥グラウンドゴルフ大会・スポーツ大会・ゲートボール大会（年1回）

⑦ゲートゴルフ大会・ペタンク大会（各年1回）

⑧市老連カラオケ大会（年1回）

⑨歌を歌おう会

カラオケを実施（年4回）

⑩元気で行こう会

和歌山市内の公共施設・各名所などの見学を実施（年2回）

⑪つれもて行こう会

日帰りバス旅行を実施（年2回）

⑫お茶を飲もう会

手芸講習会を実施（年1回）

⑬ウォーキング

各地区で随時実施

◇友愛

①各地区の幼稚園・保育園・小学校との世代間交流

②独居老人宅を訪ね、よき話し相手となることを基本に認知症や孤独死の予防

③市老連懇親旅行（年1回）

④市老連懇親研修会（年1回）

⑤お茶を飲もう会

花見を開催（年1回）

◇社会奉仕

①各地区の小学校・神社・公園・河川敷・自治会館・公民館・道路などの清掃、美化活動

②老人ホームへの慰問活動

③小学校の登下校時の子供見守り隊活動

◇その他

①新規加入促進運動（各地区の連絡所・支所などにちらし配置）（声かけ運動）

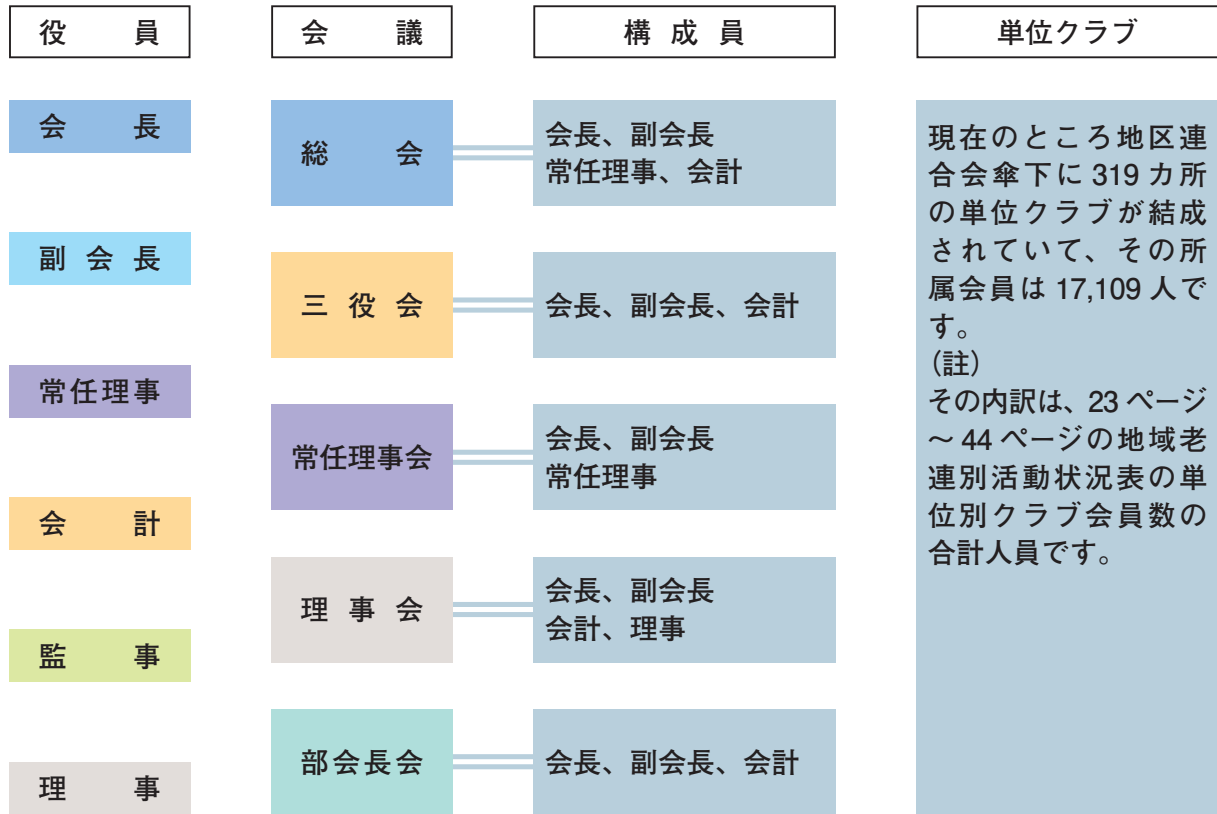
○今後の課題と方針

単位クラブの若手後継者不足・新会長の育成

新規加入促進に向けての取り組み、会員数をいかに増やしていけるかが問題であり、誰もが入会したくなる魅力ある老人クラブをつくっていくことが大きな課題となる。今後も人と人とのつながり（絆）を大切にしていきながら、老人クラブの役割を認識し、できる限り地域に還元することで、いきいきとした住みよい町づくりの担い手となる必要がある。

年次別比較表		
区別	クラブ数	会員数
開設時 (S.38.8)	190	13,958
現在 (H.25.9)	319	17,109

和歌山市老人クラブ連合会 運営組織表



事務局

〈各部会〉

総務部会、教養部会、
 いきがい部会、体育部会、
 女性部会
 (つれもて行こう会、元気で行こう会、
 お茶を飲もう会、歌を歌おう会) が
 設立しています。

〈役員集合写真〉



和歌山市老人クラブ連合会 役員一覧表

役 職	地 区 名	氏 名
会 長	木 本	遠藤 吉貞
副会長 (総務部長)	宮 前	坂元 政男
副会長 (教養部長・会計)	直 川	切目 忠男
副会長 (いきがい部長)	有 功	石田 等
副会長 (体育部長)	東山東	神谷 誉章
副会長 (女性部長)	広 瀬	尾形美栄子
監 事	砂 山	富田 信夫 ※
監 事	四箇郷	竹本 幸生 ※
理 事	加 太	貝塚 和彦
理 事	松 江	中嶋 義弘
理 事	西 脇	平野 保彦 ※
理 事	野 崎	豊田 康生
理 事	湊	宇治田龍三 ※
理 事	楠 見	中尾 純和
理 事	貴 志	山口 定雄
理 事	紀 伊	東山 泰斉
理 事	川 永	中村 有作 ※
理 事	山 口	明渡 敏泰
理 事	西和佐	河野 健一
理 事	和 佐	平成18年退会
理 事	小 倉	三木 謙造
理 事	三 田	上野 芳暉
理 事	岡 崎	西谷 暢浩

役 職	地 区 名	氏 名
理 事	安 原	雑賀 啓司 ※
理 事	西山東	西浴 敬夫
理 事	宮 北	宮田 剛 ※
理 事	宮	西原 憲一
理 事	名 草	北端 宏次
理 事	和歌浦	武田 嘉子
理 事	雑 賀	山本 隆造
理 事	雑賀崎	東 貞一
理 事	田 野	山野 誓 ※
理 事	高 松	西林 敏明
理 事	吹 上	金田 章
理 事	今 福	古田 昌宏
理 事	城 北	沼野 敏正
理 事	雄 湊	慈幸 貢 ※
理 事	本 町	山田喜未代
理 事	中之島	野地 勇
理 事	大 新	山崎 克爾 ※
理 事	新 南	鈴木 寛
理 事	広 瀬	瀧口 幹二
理 事	芦 原	上野 律子
理 事	木 本	(女性部) 野上とよ子
		〈欠員〉

※ = 常任理事

和歌山市老人クラブ連合会 ブロック別構成表

ブロック別	番号	地区名	会長名
1	1	加太	貝塚 和彦
	2	木本	遠藤 吉貞
	3	松江	中嶋 義弘
	4	西脇	平野 保彦
2	5	野崎	豊田 康生
	6	湊	宇治田龍三
	7	楠見	中尾 純和
	8	貴志	山口 定雄
3	9	有功	石田 等
	10	直川	切目 忠男
	11	紀伊	東山 泰斉
	12	川永	中村 有作
	13	山口	明渡 敏泰
4	14	西和佐	河野 健一
	15	和佐	平成 18 年退会
	16	小倉	三木 謙造
	17	四箇郷	竹本 幸生
5	18	三田	上野 芳暉
	19	岡崎	西谷 暢浩
	20	安原	雑賀 啓司
	21	東山東	神谷 誉章
	22	西山東	西浴 敬夫

ブロック別	番号	地区名	会長名
6	23	宮北	宮田 剛
	24	宮	西原 憲一
	25	宮前	坂元 政男
7	26	名草	北端 宏次
	27	和歌浦	武田 嘉子
	28	雑賀	山本 隆造
	29	雑賀崎	東 貞一
	30	田野	山野 誓
8	31	高松	西林 敏明
	32	吹上	金田 章
	33	砂山	富田 信夫
	34	今福	古田 昌宏
9	35	雄湊	慈幸 貢
	36	城北	沼野 敏正
	37	本町	山田喜未代
	38	中之島	野地 勇
10	39	大新	山崎 克爾
	40	新南	鈴木 寛
	41	広瀬	瀧口 幹二
	42	芦原	上野 律子
女性部	43	広瀬	尾形美栄子
	44	木本	野上とよ子
	45		〈欠員〉